

環境講演会

11月12日(火)、町内の中高生を対象とした「環境講演会」を白糠高校体育館で開きました。

講演は「カーボンニュートラルの必要性和取り組みについて」いま私たちにできること」と題して、環境省の福田朋也氏が講師を務めました。

講演会には白糠学園と庶路学園の8、9年生、茶路中学校の1、3年生、白糠高校生を合わせた約150人が参加しました。

カーボンニュートラルとは、二酸化炭素など温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることです。

福田氏はカーボンニュートラルに



「節電や食べ残しをなくすなど、家計に優しい取り組みは脱炭素につながる」と話す福田氏

ついて、環境省のアンケート結果から、言葉は知っている人が9割、取り組みが必要と思っている人は7割、行動をしている人が3割と説明し、「日本ではカーボンニュートラルの取り組みが順調に進んではいますが、3割の人しか行動していない。皆さんが行動することで、世の中はどんな変わっていく」と話しました。

そのうえで、脱炭素の取り組みは難しいものばかりではないと強調。

「節電、できるだけ徒歩で移動する、環境に配慮された素材の服を着るなどもカーボンニュートラルの立派な取り組みです」と話しました。

最後に福田氏は、脱炭素な暮らしの実現を目指して2022年10月に始まった国民運動「デコ活」を説明。

「デコ活」の「デコ」は、二酸化炭素を減らす脱炭素(デカーボナイズーション)と二酸化炭素(CO2)の意味で、環境に良いエコ(Eco)の響きもあり、それに活動・生活を意味する「活」を組み合わせた言葉です。

福田氏は「気候危機への対応は、全人類共通の喫緊の課題。国民一人一人が新たなライフスタイルへ転換していくことが重要。少しでもできることから行動してほしい」と呼び掛けました。

備えあれば憂いなし

北海道地域防災マスター認定研修会

11月17日(日)、北海道釧路総合振興局が主催する「北海道地域防災マスター認定研修会」が白糠消防庁舎で開催されました。災害時に地域防災リーダーとして活躍する人を育てる北海道の取り組みで、防災に対する知識や心構え、災害時の対応などを身に付けてもらうことが狙いです。

今回は町の要請・協力により初めて本町での開催となり、役場職員や教員、社会福祉協議会職員、町議会議員、一般町民を合わせた29人が参加しました。

研修会では「防災リーダー講座」をはじめ、人形を使っての胸骨圧迫やAEDを使った心肺蘇生法を学ぶ「応急救護講習」、釧路地方気象台の職員による防災に関する気象情報の講話、北海道版避難所運営ゲーム(Doはぐ)が行われ、参加者は真剣な表情で研修に望んでいました。

今回認定された29人を含め、白糠町の防災マスターは計45人となりました。



①5つのグループに分かれて行われた避難所運営ゲーム。ゲームを通して避難所運営を模擬体験しました。②「気象情報を入手し、危険が迫っていることを事前知っておくことが大事」と話す釧路気象台の山本貴幸土砂災害気象官。③AEDを使って心肺蘇生法を学ぶ参加者。